

第4分科会 教育環境

多様化する教育環境とPTAの役割

～地域の伝統文化継承のための学校への協力～

石垣市立石垣小学校 PTA 会長 富永 忠明



1 はじめに

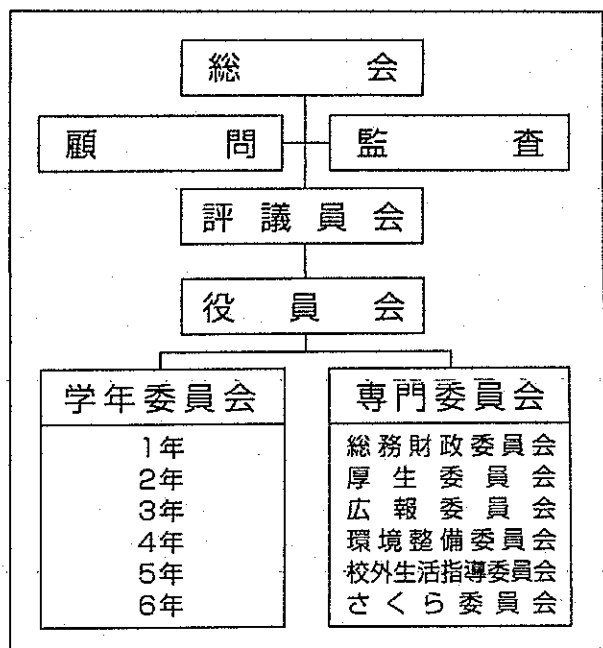
本会のある石垣島は、沖縄本島よりも台湾に近く、周囲には大小様々な島が点在している。人口は約5万人、外周140km、面積229kmで、沖縄本島と西表島に次ぐ県内3番目に大きな島である。

島の南部は平地が多く人口が集中しており、中央部には沖縄県で最も高い於茂登岳（標高526m）がそびえ、亜熱帯の美しい自然に囲まれた常夏の島である。

会員の子どもたちが通う石垣市立石垣小学校は児童数363名で、1～6学年が2学級ずつと、特別支援学級が2学級の全14学級。明治14年に八重山島石垣南小学校として創立され、石垣南尋常小学校・大川尋常小学校・石垣尋常小学校・沖縄県八重山郡石垣町石垣国民学校・石垣初等学校と5回の改称の後、昭和24年に現在の石垣小学校となった。今年度創立142年目となる石垣市内で最も歴史と伝統のある小学校で、令和5年度は、P会員数267名、T会員数22名で構成されたPTA組織である。

(2) 目的達成のための組織

令和5年度のPTA組織は下の組織図の通り。



第4分科会

2 石垣小学校PTAの組織と活動状況

(1) PTAの目的

本会の活動目的は「家庭と学校・学校と地域の連携をより一層密にして児童の福祉を増進するとともに、保護者、教師のより高い教養と教育に対する理解を深めること」とされており、目指す保護者像として、「温かさや厳しさのある保護者、子どもとともに学び合う保護者、学校・地域社会と連携し、ともに行動できる保護者」を掲げている。

(3) 専門委員会の活動内容

PTA組織は6つの専門委員会で構成されている。それぞれの委員会の主な活動は以下の通り。

① 総務財政委員会

ア 評議員会の資料作成・司会進行



第4分科会

- イ 石小祭りの実施要項作成・各係の役割分担・チケット作成及び販売
- ウ 感謝のつどいの実施計画案作成・係の役割分担・予算決算
- エ 総会の資料作成

② 厚生委員会

- ア PTA親睦スポーツ大会の大会運営
- イ 市P連主催親睦スポーツ大会に向けた練習の運営
- ウ 親子トリムマラソン大会の大会運営



③ 広報委員会

- ア 評議員だよりの発行（7月）
- イ 広報誌「絆」の発行（年5～6号）
- ウ がじゅまる特集号発行（運動会・卒業記念）
- エ 学年広報誌コンクール運営・表彰
- オ 行事等の撮影記録



④ 環境整備委員会

- ア 環境美化作業 危険箇所点検
- イ 備品メンテナンス



⑤ 校外生活指導委員会

- ア 朝のあいさつ運動
- イ 朝・夕の広報車での活動
- ウ 青色回転灯講習会の実施
- エ 石垣市青少年街頭指導活動
- オ 行事等のパトロール・駐車場係
- カ PTA広報車のメンテナンス



⑥ さくら委員会

- ア ベルマーク回収の取組
- イ 読み聞かせの取組
- ウ 講演会の開催
- エ 校内話童話お話大会の開催
- オ 行事等の受付、湯茶接待



3 教育環境整備への関わりの工夫と成果

(1) 実践内容

P T Aや地域が協力することで、学校単独での実施よりもさらに教育環境が整い、教育効果が高まった関わり等の目的・内容・成果について紹介する。

① 石小祭り

資金造成や会員の親睦を深めることを目的とし、年に一度P T A主催で行われる祭りである。コロナの影響で過去3年は開催中止となっており、今年4年ぶりの開催となった。

ア 目的

無理・負担のない持続可能な祭りの運営計画を行う。

イ 内容

「健全育成」と「子どもを楽しませること」を主とし、開催時間や出店内容の見直しを行った。

ウ 成果

事前に必要な打合わせ・学年や部会別話し合い・会場準備・片付け等にかかる時間のスリム化が行えた。



各学年からのゲームの出店が、子どもたちも楽しめ、店番でも活躍できると好評だった。また、事後アンケートの結果でも高い評価が得られた。

② ふるさとまつり

学校の運動会で行われている表現運動の種目で、1年生から6年生までが役割を分担し、舞踊・棒術・旗頭・獅子舞等、地域の豊年祭(五穀豊穡を神に感謝する祈願祭)の一連の演技を行う。

ア 目的

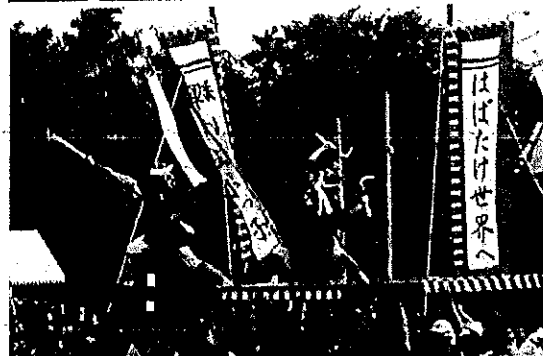
地域の伝統文化を体験させることで、その価値や良さに気づかせる。また、小学校の段階から地域の指導者と関わりを持つことで、未来の担い手を育てる。

イ 内容

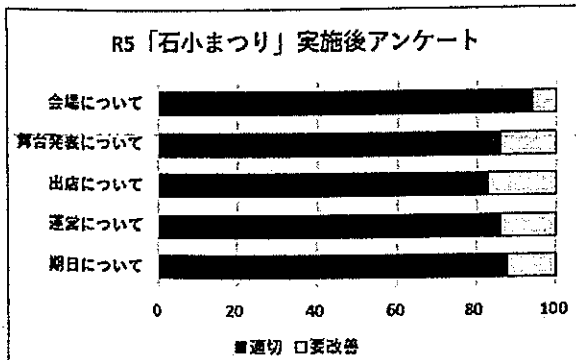
教員では難しい、舞踊・棒術・旗頭・獅子舞等の指導者として、子どもたちや教師に指導する。

ウ 成果

専門的な指導を行うことができるだけでなく、地域人材と児童が関わりを持つ場となることも有効。卒業しても地域の行事に関心を持ち、参加する児童が増えている。



R5「石小まつり」実施後アンケート



(2) スمامニ（島言葉）教室

行政と連携した地域人材活用事業として行われている方言の学習会。

ア 目的

スمامニの継承・普及・促進のため、地域の子どもたちにスمامニの素晴らしさを教える。

イ 内容

毎週水曜日の放課後の時間、学校の空き教室を使って地域の方言名人が参加希望の児童を対象に行っている。

ただ島の言葉だけを学ぶのではなく、歴史や文化にふれたり、方言カルタや方言校歌等、和気藹藹と楽しみながらスمامニを学んでいる。

ウ 成果

限られた教育課程（学校の授業）の中で行われる方言学習とは違い、指導に時間がかけられる。

さらに、石垣島では島内でも方言に地域性があるため、他地区や他地域から来た教員では難しい地元の方言指導も可能となる。

また、同講師による文化体験学習もあり、こちらは希望の親子を対象とし、休日に昔話絵本や地域に伝わる伝統的な凧作りを行う。



4 今後の課題

新しい形で実施した行事や取組等は、その成果と課題の検証が大切になる。復活できたことや新しい形になったことで良しとすることなく、常に学校や地域と情報交換を行い、その時々ニーズに合った取組となるよう、PDCAサイクルを確立させることが必要。

5 おわりに

教育環境を整えることは、子どもたちの健全な成長につながると実感している。

コミュニティ・スクール（地域とともにある学校づくり）の推進が進む現在、保護者・学校・地域が一緒に協働し、さらなる教育環境の整備に努めていきたい。